

1 次の文章の空欄(1)～(5)にあてはまる言葉をそれぞれ次のア～オから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

(1) \_\_\_\_\_、世間では好き嫌いはよくないことだされている。とはいえ、人間には心があり、心には感情がある。(2) \_\_\_\_\_好き嫌いの気持ちがあるのは当然のことだ。松や桜や、梅や竹など様々なものがあるから自然は面白いのと同じく、人間にも好き嫌いなどの感情の違いがあるからこそ、(3) \_\_\_\_\_面白いのだ。(4) \_\_\_\_\_、好き嫌いの感情にこだわってはいけない。自分の好き嫌いを頑固に押し通せば、それはわがままである。(5) \_\_\_\_\_、自分が嫌いなあの人を、他の人も嫌うべきだ、というような考えは、わがまま以外の何もでもない。その人は、自分にとって嫌いな人であっても、他の人にとっては大事な人かもしれない。松を愛する人、桜や梅や竹を愛する人、いろいろな人がいるからこの世は面白いのである。

ア だが イ なるほど ウ だから エ むしろ オ 例えば

2 次の文章の空欄(6)～(10)にあてはまる言葉をそれぞれ次の力～ロから選び、記号で書き入れましょう。(同じ記号は一度しか使えません)

自分の力を信じられない時に人は怖じ気づくものです。目の前にいる相手が自分よりも勝っていると思うと、怖くて仕方が無い感情にとらわれてしまうのです。この時、「いや、自分は相手よりも勝っている。(6) \_\_\_\_\_、何も恐れることはない。」と自分に言い聞かせるという対処方法があります。でも、この方法は、自分に嘘をつき、相手の本当の姿を見ようとしないうけですから、(7) \_\_\_\_\_うまくいかないでしょう。(8) \_\_\_\_\_うまくいったとしても、大変に気疲れしてしまいます。これに対して、「相手には力がある。(9) \_\_\_\_\_自分よりも勝った力である。」と認めた上で「(10) \_\_\_\_\_相手はその力を、自分を攻撃するためには使わないだろう」と信じて、自分も相手に対して自分の最大限の

誠意<sup>せいい</sup>を尽くすという方法もあります。こちらの方がはるかに誠実<sup>せいじつ</sup>な対処法です。もしあな  
たが、誰か<sup>だれ</sup>に対して怖じ気を感じた時には思い出してみてください。

カ たとえ      キ しかし      ク したがって      ケ しかも      コ きつと